

Floppy's Phonics Stage 6 'Mum's Birthday Surprise'

p.1

「今度の木曜日はお母さんの誕生日ね」ビフが言いました。「サプライズのプレゼントは何にする？」

「あ、香水だ！」

p.2

「この香水、お母さんのにおいがする」とチップ。「ファーンっていうんだ。でも 30 ポンドもするよ」

p.3

ビフは自分の財布を見ました。7 ポンドしかありません。チップとキッパーは 5 ポンドずつでした。

「高すぎるなあ」

pp.4-5

「全部で 17 ポンドか」チップは言いました。「13 ポンド足りないよ」

「お母さん、ファーンをあげたら喜ぶだろうなあ」

「どうすれば買えるかなあ？」ビフが言いました。「お父さんに聞いてみようか」

「そのお金、ぼくたちで稼げないかな」

p.6

ちょうどそのとき、「ヒュー、ドーン」という音がしました。空に花火が上がったのです。

p.7

「ありゃ、いったい何だ？」お父さんが聞きました。

そのあとも花火はいくつも上がりました。

「わあ！ 銀色と紫色の花火だ」

p.8

それはマックスおじさんでした。おじさんが花火を上げていたのです。

p.9

「ほんとうに変わった人だ」お父さんが言いました。

「相変わらずだな」

子どもたちはマックスおじさんが大好きでした。

「おじさん、おもしろいもん」

p.10

「1日か2日、世話になってもいいかな？」マックスおじさんが聞きました。「木曜日までには帰るよ」

「トツゼン、オジャマシマス」

p.11

「今木曜日って言いましたか？」お父さんが聞きました。

「ああ、たしかにそう言ったよ」とマックスおじさん。

「わしは言ったことはちゃんと守る男じゃ」

p.12

子どもたちはおじさんと一緒に楽しく過ごしました。

お母さんのためにバースディケーキを作りました。

ケーキは紫色の砂糖で飾りつけられました。

「お母さんの好きな色だ」

p.13

「おじさんは世界中旅したんでしょ」キッパーが言いました。「何かお話してよ」

「そうじゃな、むかしむかし……」

p.14

「わしは海にもぐって真珠をさがしておった。そのとき大きなカメがやってきた。カメはわしと一緒に泳ぎたかったんじゃな」

p.15

「カメはわしを海の底まで連れて行ってくれた。そこで貝を見つけてな、その中に大きな真珠があったんじゃ」

p.16

「だが、わしはタコに足をギュッとつかまれてしまった。どんなに引っぱってもどうしてもとれない」

p.17

「あんなに恐ろしい目にあったことはなかった！だがそのとき、わしは少女の歌声をきいたんじゃ。いやあ、驚いたのなんのって！」

p.18

「それは人魚だったんじゃ。人魚はわしの手をしっかりと握って、タコから引き離してくれた」

p.19

「マックスおじさん！」キッパーが言いました。「人魚なんてほんとはいないんだよ」

p.20

子どもたちはコンサートを開きました。歌を歌ったり、ちょっとした劇もやりました。

「人魚が助けてくれたんだ」

p.21

おじさんはそのコンサートがとても気に入りました。そして、子どもたちにお小遣いをくれました。

「大したもんだ」

p.22

そんなわけで、子どもたちはやっとお母さんの大好きな香水をプレゼントすることができたの

です。

「やっぱりファーンはいいわ。ありがとう」

p.23

マックスおじさんもお母さんに箱をひとつあげました。

「何かしら？」お母さんが聞きました。

p.24

中には大きな真珠が入っていました。

「それは人魚へのお礼じゃよ」おじさんは言いました。

「マタ、ウソツイテル」